

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立東唐津小学校
1 前年度 評価結果の概要	①学力向上、心の教育、健康・体づくりに関する取組が、児童の「知・徳・体」の向上につながったことがうかがえる。今後は、学習指導方法の改善、充実、基盤となる仲間づくり、一人一人に寄り添う教師の人材育成の観点から具体的に取組を見直し、より一層の充実を図る。 ②コロナ禍で薄れていた児童、教員、保護者や地域が連携した学校行事等が再回できてきたことにより、児童の「知・徳・体」の更なる向上が見えてきた。今後は、「ひがしっ子」の合言葉をもとに、地域とともに各行事等の目的を再確認しながら時代に合った更なる連携を模索し、実施していく。 ③児童への「出席・役割・称賛」が、児童の「自己有用感」を高めることにつながったことがうかがえる。今後は、児童の頑張りを的確に見取り、称賛と励ましを続けていくだけではなく、広く地域、家庭との連携を強めながら、児童のより高い「自己有用感」を目指してキャリア教育を充実させる。 ④本校の特色を生かした一人一人を大切にす教育、障害の有無に関係なく、誰もが一緒に学ぶ教育への取組が取組目標に達することができた。今後は、取組により見えた課題を解決すべく教職員の研修、研鑽に励み、それぞれの教育の質的向上を組織的に検討し、更なる充実を図る。 ⑤業務改善・教職員の働き方改革の取組目標は達成できている。今後は、管理職のマネジメントのもと、本改革の趣旨である子供と向き合う時間の確保と教育の質の向上に向けて、各教職員の指導技術の向上、教職員の人材育成に向けた実効的、効率的な研修を実施し、さらなる充実を図る。
2 学校教育目標	みんなと確かに伸びる子どもの育成 ○ひびき合うあいさつ ○がんばる勉強・読書 ○しっかり仕事 ○コミュニケーション ができる東っ子
3 本年度の重点目標	①児童が主体的に学習や生活、学校行事等に関わる組織づくりと手立てを工夫し、児童の「知・徳・体」の向上を目指す。 ②「ひがしっ子」の合言葉のもと、児童・職員・保護者・地域が目標を共有し、連携を深めながら、児童の「知・徳・体」の向上を図る。 ③キャリア教育推進のための手立てを確立し、児童の「志」の確立と自己有用感の向上を図る。 ④それぞれの個性や多様な価値観が尊重され、安心して学ぶことができるためのインクルーシブ教育の充実を図る。 ⑤業務改善・教職員の働き方改革による、よりよい教育活動の推進を図る。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目									
重点取組				最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による目指す子ども像の共通理解と校内研で行う各自の課題解決のための実践	○学習についての意識調査を行い、児童が自らの学習において課題をおおむね達成したと答えた児童80%以上を目指す	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「書く活動」、「話し合う活動」を意識した学習を行う。	A	・全職員が意識を高く持ち、自分の課題に取り組むと同時に、他者の授業参観も多を行った。学習の意識調査の結果では、肯定的意見(「そう思う」、「だいたい思う」)の割合がすべての項目80%を超えていた。	A	・個人の能力アップに合わせたレベルアップ指導に期待している。 ・「おおむね良好であるが、「家庭との連携ができていない」の質問に、保護者が「わからない」と回答した比率が高いのが少々気になる。	・学力向上コーディネーター	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重すること、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○県DVD教材を使った道徳の授業や全校道徳後の振り返りにおいて、肯定的な回答をした児童の割合が85%以上	・全学級が年に1回以上は、道徳の学習で県のDVD教材「ジシヤんケンちゃん」を使用した授業を行う。 ・全校道徳では外部講師を積極的に招き、児童に「命」「仲間」「共生」について考えさせる。	B	・県教材を使用した授業は5学年が実施できた。残りの学年も年度内に実施する予定である。 ・全校道徳の振り返りについて肯定的な回答をした児童は90%であった。日常においては児童の心ない言動が見受けられるので、児童の人権意識を高めるため、短い全校道徳を回数を増やして行うなど児童に考えさせる機会を多くもつ必要がある。	A	・今しかできない体験・経験をたくさんさせてほしい。 ・教師意見の「そう思う」と「だいたい思う」の割合が逆転するくらいがんばってほしい。	道徳教育推進教師	
	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの防止等(いじめの定義、いじめ防止等)についての取組、事後対応等)について、組織対応ができていると回答した教師の割合が90%以上	・毎月末に全児童を対象とした「なかよしアンケート」を実施し、児童の実態を把握する。いじめを気づいたら、全職員で解決を図る。 ・児童の様子等を共有する子ども理解研修会を毎月実施し、全職員の共通理解を図る。	A	・いじめを未然に防ぎ、思いやりを育てる指導に取り組んでいると回答した保護者が91%、いじめについて組織的に対応できていると回答した職員は100%だった。 ・いじめとして対応した件数は少ないが、言葉づかい等による嫌がらせについてはまだ改善の余地があるので、指導を継続していく。	A	・いじめは発生してから早期発見、早期対応では遅い。いじめがはじめから起きないようにするために、いじめ防止の教材を見せさせておく必要がある。 ・いじめに発展する前に未然に防げばいいが、永遠のテーマだと感じている。	生徒指導主事
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童の資質・能力を育む授業づくりを推進する。 ・キャリアパスポートを活用し児童の夢や目標を可視化し、指導を生かす。 ・「ソーシャルスキルトレーニング等を通して児童の良い所を積極的にに賞賛する。	A	・「先生はあなたのよいところをみとめてくれていると思う」児童の割合は、95% ・「将来の夢や目標をもっている」児童の割合は、83%であった。 ・引き続き、学校生活の中で児童の伸びやよきを見つ本人に伝え自己肯定感を育んでいく指導を続ける。	A	・夢や目標の大小に関係なく、保護者とともに個人の夢・目標に近づこうサポートすることが大切であると考ええる。 ・世の中にどのような職業があるのか、その職業に就くにはどんな努力が必要なのかなど教えてあげてほしい。私は小学校のころの記憶がいまだに残っている。	教務主任・キャリア教育	
	○「運動習慣の改善や定着化」	○「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間(300分以上)の児童60%以上を目指す。定期的にアンケートを取り調査をする。	・運動会や体カテストについて事前におくとい運動について情報提供をしたり、マラソン大会や縄跳び大会の前に、全校で昼休みに練習をする時間を設ける。	B	・普段の様子を見ていると外で遊んでいる子どもはいるものの一日45分以上の子どもは、全体の40%だった。前年と比べ、運動量は落ちていると考える。体育的行事の前には練習期間を設定し、取り組ませたので、今後は行事以外の期間にも運動を推奨する情報を伝え、目標の60%以上を目指していきたい。	B	・登校距離が短いので、体力作りが大変だと感じている。 ・よく校庭でサッカーをしている児童を見かける。 ・校長先生の校門前で毎朝されている安全指導は、児童の安全・安心、健康状態の把握につながっていると思われる。	健康部 体育主任	
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・食事で好きなもの嫌いなもの関係なく何でも食べる児童70%以上。	・ランチルームに、食に関する資料を毎月掲示する。 ・授業教と連携した食育指導を学期に1回行う。	A	・「食事で好きな嫌いな関係なく何でも食べようとしている」について肯定的な回答をした児童は81%であった。 ・次年度も栄養教諭や児童委員会連携した食育の取り組みを行ってきたい。	B	・食に関しては保護者の理解が一層だと思ふ。 ・健康は運動と食事から。児童の嫌いな食べ物はあるのか、どのような栄養があり、健康に役立っているのかの授業も必要ではと考える。	健康部 食育	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●教師個々が時間外在校時間を自覚できるよう個人記録を作成する。また、定時退勤日(原則毎週金曜日)を設定する。	A	・4月から1月までの時間外在校等時間の平均は20時間39分で教育委員会規則に掲げる上限45時間を下回っている。 ・すべての職員に働き方に対する意識改善が図られている。	A	・学校も大事だが家庭も大事。ワークライフバランスを大切に今後も推進してほしい。 ・働き方改革は、まだまだこれからも続いていくテーマだと考える。	教頭	
●特別支援教育の充実	○全ての児童を対象とした、分かりやすい授業の実践	○児童の実態を把握し、合理的配慮を意図した授業ができていると回答した教師80%以上	・個別の支援計画の作成と活用 ・特別支援教育に関する研修会の実施	A	・児童1人1人に応じた適切な支援を行い、担当している児童を1人も取り残さないように取り組むことができていると回答した教師100%だった。	A	・「おおむね良好である」	特別支援教育コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組				最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者	
◎地域連携・地域愛する人材育成	○OPTAや地域と交流する活動への積極的な企画、参加	○交流活動で地域の良さに気づき、存続させようと考えた児童80%以上	・松原保全活動や海洋教育パイオニアスクールプログラムを地域との結び付きから自分事として考えさせ、切実感や必要感をもたせる。	A	・児童を対象にしたアンケートで地域の良さに気づき、存続させようと考えた児童の割合が92%であった。東唐津のよさを知り、地域を誇りに思う児童を育成することができた。	A	・公民館のいろいろな行事参加している。今後も積極的に参加してほしい。 ・町おこし会がなくなって久しく、地域との交流が少なくなつたのは残念だと感じている。 ・150周年記念期待している。	特活部	

5 総合評価・次年度への展望	①児童の主体的な学びのために指導方法の工夫を行った結果、児童の「知・徳・体」の向上につながったことがうかがえる。今後は、校内研を中心に共通した実践を重ねることで組織作りの強化を図る。 ②保護者、地域と連携した学校行事は概ね予定通り実施できた。今後はコロナ禍で一時的だった、「ひがしっ子」の合言葉があらためて地域に浸透するよう、情報発信に努める。 ③キャリア教育推進のために、様々な体験活動を実施した。多くの活動が児童の「出席・役割・承認」を充実させることにつながり、結果として自己肯定感を高められている。今後は地域や家庭との連携をさらに進めて体験活動の充実を図っていく。 ④一人一人を大切に、お互いに認め合い、助け合おうとする素地ができている。今後も個の理解を通して、合理的配慮と個の支援・指導計画を全職員で共通理解を図り実践する。 ⑤業務改善・教職員の働き方改革への職員の意識は定着できている。今後は全職員が全児童の担任という共通意識をもち、協力して児童の指導・支援にあたることで教育の質のさらなる向上を図る。
----------------	--